

**観光交流ワークショップ（伊勢会場）**  
 ~ 自然、歴史、文化資源を活かした地域づくり ~  
 開催結果概要

日時	平成 18 年 10 月 24 日 14:00 ~ 16:00
会場	伊勢市生涯学習センターいせトピア 研修室 2
ファシリテータ	加来 雄二(三菱 UFJ リサーチ & コンサルティング(株)政策研究事業本部主任研究員)
発言者 (五十音順、敬称略)	石川 順子(フィットネスクラブ メッツ) 清水 清嗣(鳥羽商工会議所 専務理事) 高橋 徹(高橋徹都市建築設計工房) 西川 哲司(三重県観光局観光・交流室) 濱田 典保(株式会社赤福 代表取締役社長) 松山 泰久(有限会社ゼロ 代表取締役)
オブザーバー	坂巻 健太(国土交通省中部地方整備局企画部環境調整官)



**議論のポイント**

**現状・課題**

- 伊勢・志摩地域への観光客は平成6年をピークに減少傾向
- 平成17年度は前年に比べ微増ではあるが、平成6年のピーク時から半減している
- 日帰り・1泊の少人数型の旅行者が主流で、外客は少ない。
- 家族や友人など少人数グループの旅行者が大半を占め、団体旅行者は減少傾向にある。
- 日帰りないしは1泊の旅行者がほとんどで連泊客は少ない
- 県内からの旅行者が約半数、関西、中部がそれぞれ2割。その他国内からの旅行者や訪日外国人の旅行者は少ない。
- 旅行者の8割は自家用車を利用。公共交通機関の利用は少なく、ピーク時は交通渋滞などが深刻な課題
- 議論はし尽くされているが具体的な実践に結びついていない
- 現場で汗をかく人(真剣に取り組む担い手)が少ない

**どう改善すべきか？**

- 地域の資源に対する理解を深め、地域資源を有効活用するしくみづくり
- 観光客に対するおもてなしの実践を通じた意識の醸成
- 対外的な情報発信の強化・売り込み方の工夫
- 地場産業の活性化も含めた地域の魅力づくり

**地域づくり・まちづくりに求められる視点**

- 各地域の特色を活かした地域づくりと地域間ネットワークの形成
- < 地域の特色を活かした地域づくり >
- ・各地域の歴史・文化など地域資源を活かした特色ある地域づくり
- ・地域の地場産業と絡めた魅力づくりと対外的な発信
- < 新たな視点による地域間連携の強化 >
- ・伊勢湾岸や熊野灘の海路を介した新たな観光ルートの創出
- ・高山と伊勢・志摩の連携など広域連携による外客誘客の推進
- ・歴史や文化を切り口とした観光地間連携
- 観光客にとっても地域住民にとっても快適な空間づくり
- ・駅前などまちの顔づくり
- ・歩道のバリアフリー化など快適な市街地空間の整備
- ・美しい景観や親水空間の創出
- ・来訪者の視線を考慮したサインの整備
- ・観光地における2次交通の確保と交通円滑化(パーク&バスライドの拡充等)

## 第1部：観光交流への取り組みの現状と課題について

### 伊勢・志摩地域への観光客は平成6年をピークに減少傾向

- ・ 平成17年度の観光客数は、16年度と比較して微増であったが、平成6年をピークに減少傾向が続き、現在の観光入り込み客数はピーク時の半分までに落ち込んでいる。
- ・ 鳥羽では、平成3年の水族館の開館をピークに観光客が減少している。平成8年以降はさらに減少し、観光客の消費額もピーク時の6割程度に落ち込んでいる。

### 日帰り・1泊の少人数型の旅行者が主流で、外客は少ない

- ・ 伊勢・志摩地域の観光客の特徴として、その多くが家族や友人といった少人数のグループであり、団体客は減少傾向にある。
- ・ 日帰りないし1泊の観光客が大半で連泊客は少ない。
- ・ 県内からの観光客が約半数、関西、中部がそれぞれ2割。その他国内からの旅行者や訪日外国人の旅行者は少ない。
- ・ 道路網とともに鉄道があるものの、旅行者の8割は自家用車利用で、公共交通機関の利用は少ない。

### 議論はし尽くされているが具体的な実践に結びついていない

- ・ これまでの約10年間で当地域の観光に関する議論が数多くなされ、多くの課題が出尽くしたが、具体的な取り組みにつながっていないのが現状である。
- ・ 現場で汗をかく人、真剣になって取り組む担い手が少ない。
- ・ 問題意識・危機意識が地域の人々に十分に浸透していないのではないが。

## 第2部：どうあるべきか・いかに改善すべきか？

### 地域の資源に対する理解を深め、地域資源を有効活用するしくみづくり

- ・ 従来は、伊勢志摩という知名度による集客力で保たれてきたが、質が伴わず衰退傾向にある。今一度、地域の資源とは何かを見直し、地域の資源を活かした地域の魅力づくりを進める必要がある。
- ・ 地元で培ってきた暮らしが来訪者にとっては非日常的な魅力となりうる。地域住民が地域のことを理解し、非日常の空間を求めてくる観光客に地域の歴史や文化を体感させてあげられるよう取り組みを継続的に行っていく必要がある。
- ・ 観光客を迎える立場の人々が地域の歴史・文化について学習する機会は増えたものの、学習したことを有効に活用し、観光振興に結びつけるしくみができあがっていない。

### 観光客に対するおもてなしの実践を通じた意識の醸成

- ・ 来訪者にとっては、道などを尋ねた際に地元の人がどのように対応してくれたかによってその土地の印象が大きく異なる。
- ・ いざ案内をしようと思うと、意外に案内できないこともある。住民自身が地域の歴史や文化、見所などを理解していくこともおもてなしを向上させる上では必要だ。
- ・ フェイス to フェイスでないと真のおもてなしはできない。ボランティア活動などできることから実践するなかで、市民のおもてなし意識を醸成していくことが大切ではないか。

### 対外的な情報発信の強化・売り込み方の工夫

- ・ 観光客の多様なニーズに対応した観光マップの作成が必要である。歴史的スポット、目的別の散策ルートなどを示したものと喜ばれるのではないか。
- ・ 他地域との差別化を図り、伊勢・志摩の季節感や文化を体感できるイベントの開催などを積極的に行っていくといいのではないか。
- ・ 情報を欲しているところへの確に情報が伝わっていない。数々の観光資源があるもののそれ

をうまく伝達する方法を工夫していく必要がある。

- ・ 大多数の大衆への売り込み方、多数派ではないが専門的な志向の人向けの売り込み方などターゲットに合わせた徹底的な売り込み方を工夫するべき。
- ・ スポーツや医療など健康をテーマとした観光施設の充実も今後は需要が高くなるだろう。既存のストックを活用したハードの充実とともにソフトの充実を図っていくべきである。

#### 地場産業の活性化も含めた地域の魅力づくり

- ・ 旅館業者の中に地域をリードする旅館がなく、観光都市の産業として宿泊の面が弱い。旅館の規模によって強化するポイントは異なるだろうが、他の観光都市の旅館やホテルと比較しても劣らない産業としていく必要がある。
- ・ 観光客は景色とともに地域の生業を体感している。地元の農林漁業など一次産業や地場産業などを振興させながら地域の魅力づくりを進めていくことが大切ではないか。

### **第3部：地域づくり・まちづくりに求められる視点**

#### 各地域の特色を活かした地域づくりと地域間ネットワークの形成

##### <各地域の特色を活かした地域づくり>

- ・ 城下町や港町といった地域の資源を活用し、地域の特徴を活かした観光地の形成を目指していくなかで、観光客の満足度を向上させリピーターが確保していけるのではないか。
- ・ 他の地域との広域的な連携を図るためには、各地域の特徴、役割、機能を理解し、共有理解を深めていくことから始めなければならない。

##### <新たな視点による地域間連携の強化>

- ・ セントレアの開港を契機に、伊勢湾岸や熊野灘など海路を介した地域間連携を図り、新たな周遊ルートを構築できるとよい。
- ・ 高山と伊勢・志摩の連携など中部地方の観光地が広域的に連携を図りながら、国内外特に訪日外国人の誘致を強化していくとよい。
- ・ 古くから巡礼の道としてつながりがある伊勢路と、世界遺産となった熊野古道や街道をテーマに広域連携を図っていけるのではないか。かつての交通や流通ルートを探ることで地域間のつながりが見えてくると思う。歴史や文化のつながりが地域間のつながりを探るキーワードであり、ストーリーのある広域的な連携を進めていくことが必要である。

#### 観光客にとっても地域住民にとっても快適な空間づくり

- ・ 駅前など来訪者が降り立つ場所の顔づくりを行っていくべきではないか。同時に観光客への的確な情報提供を拠点となる場所に整備していくことも必要。
- ・ 観光客にとっても住民にとっても安全に快適に移動できるよう、歩道のバリアフリーなど地道ではあるが、さらなる充実を図っていく必要がある。
- ・ 川辺や海辺など魅力的な親水空間を創出していくことも大切。
- ・ 風土や生活の中で培われてきた地域固有の景観を活かし、人が行き交い、地域住民と観光客が交流を図れるよう、親しみあるまちなみや河川景観の整備が必要である。また、移動途中の道路沿いの風景や海からの景観などの観点から地域の景観を見直すことも大切ではないか。
- ・ 伊勢への観光客のほとんどが自動車利用で、正月や休日になると各地渋滞が発生している。パーク&バス・ライドの利用を促すよう多様なニーズに合わせたシャトルバスの運行など2次交通の拡充を図るべき。
- ・ 山間部の道路は、観光バスが通行するには急所や狭小で危険な箇所も多いため整備をしていく必要がある。